資　料　1

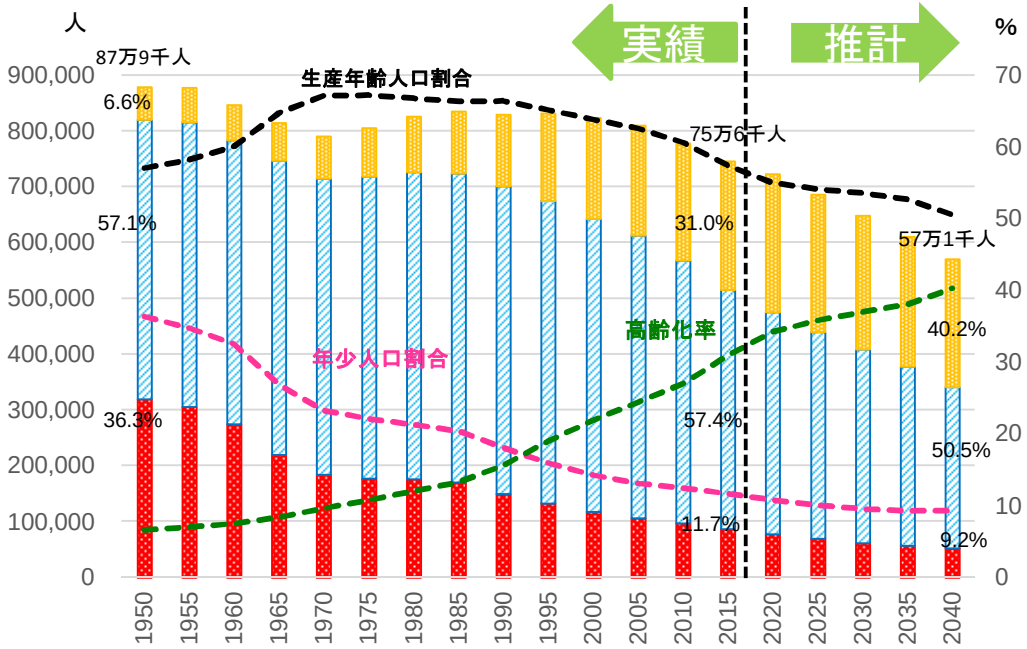
徳島県の少子化の現状等について

1　将来の人口見通し

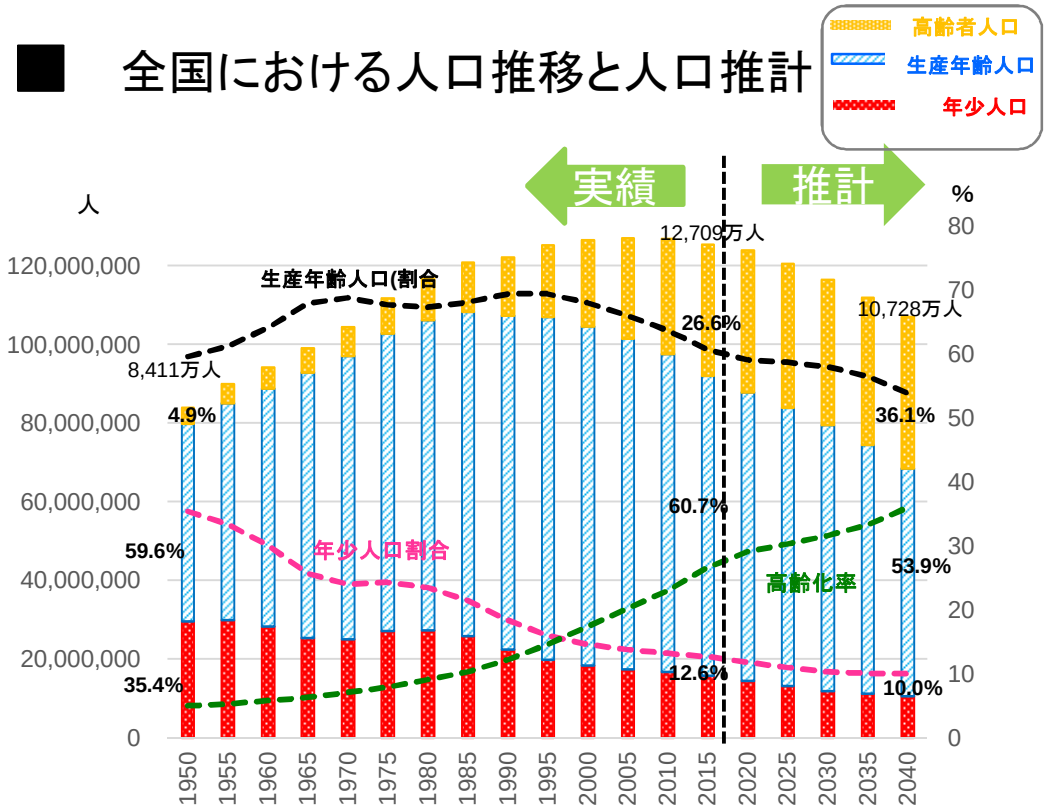
人口構造の推移と見通し

- 本県の総人口は今後も減少を続け，2040年には，57万1千人となる見通し。
- 本県の人口構造は大きく変化し，年少人口（0～14歳）の総人口に占める割合は，1950年の36.3%から2040年には9.2%，同じく生産年齢人口（15～64歳）は57.1%から50.5%まで低下する。
- また，高齢者人口（65歳以上）は2020年頃にピークを迎えた後減少に転じるが，総人口に占める割合は上昇を続け，2040年は40.2%となる。

■　徳島県における人口推移と人口推計



■　全国における人口推移と人口推計



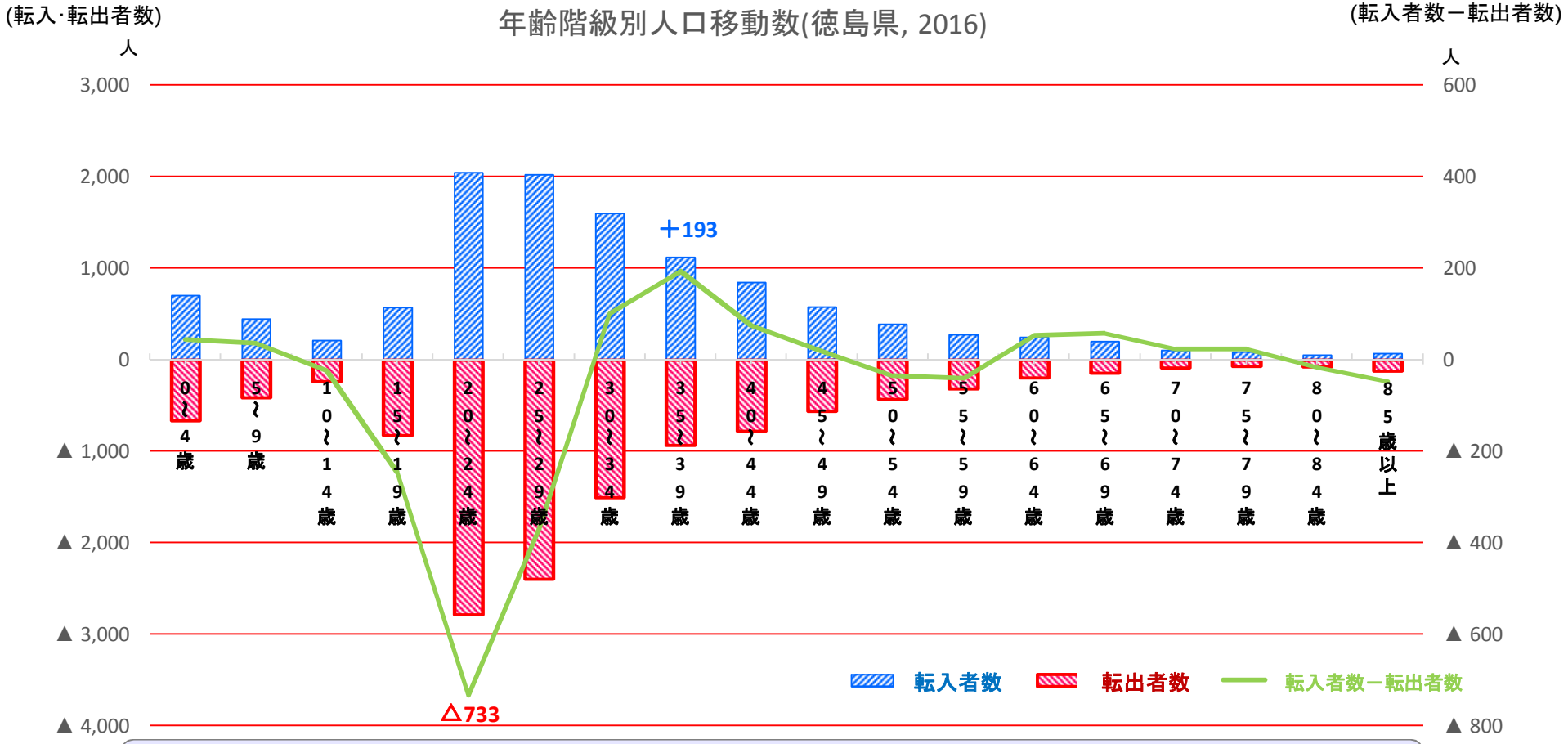
出典：総務省「国勢調査」

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来地域別推計人口」「日本の将来推計人口」

2　人口流出の現状

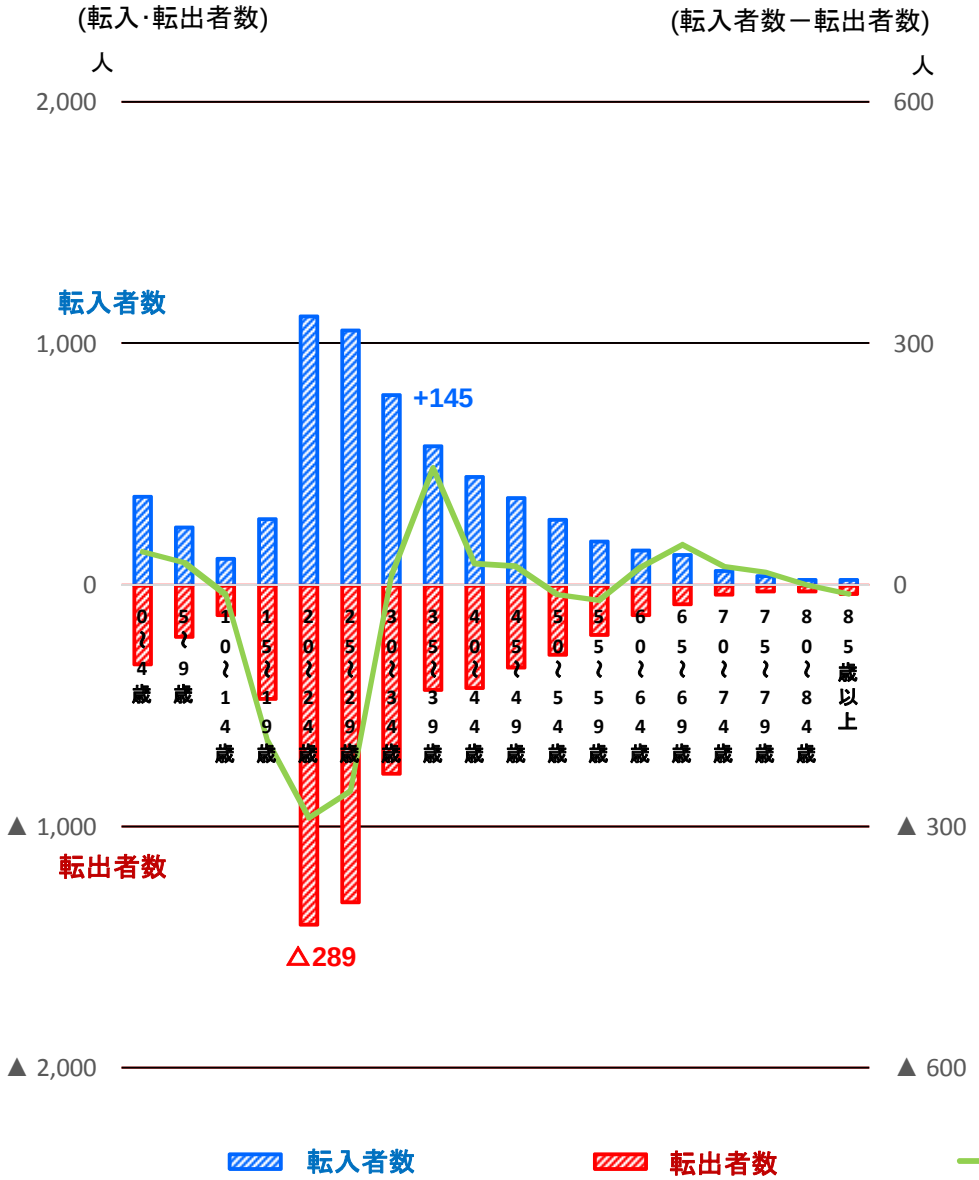
年齢階級別人口移動

- 2016年では，人口流入出者数(転入者数－転出者数)が20歳～24歳で▲733人と最も多く全体の人口流出数(▲892人)の，大半がこの20歳～24歳の間に集中している。
- 2016年の20～24歳の女性の人口流出数(▲444人)と男性の人口流出数(▲289人)を比較すると，これから出産適齢期をむかえる年代の女性人口は男性の約1.5倍流出している。

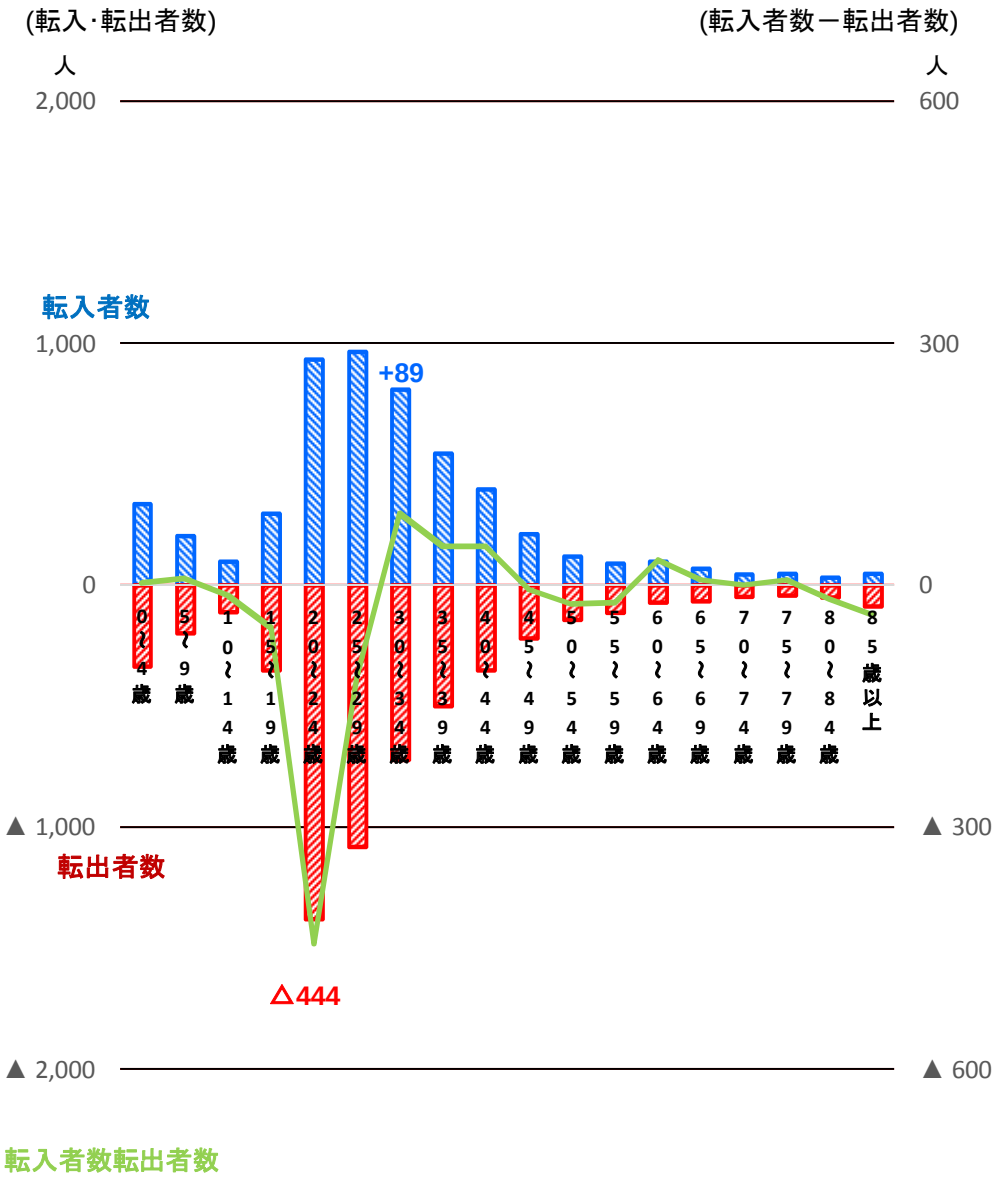


出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」 徳島県統計データ課「人口移動調査」

年齢階級別人口移動数(徳島県男性, 2016)



年齢階級別人口移動数(徳島県女性, 2016)



転入者数　転出者数　転入者数転出者数

出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」 徳島県統計データ課「人口移動調査」

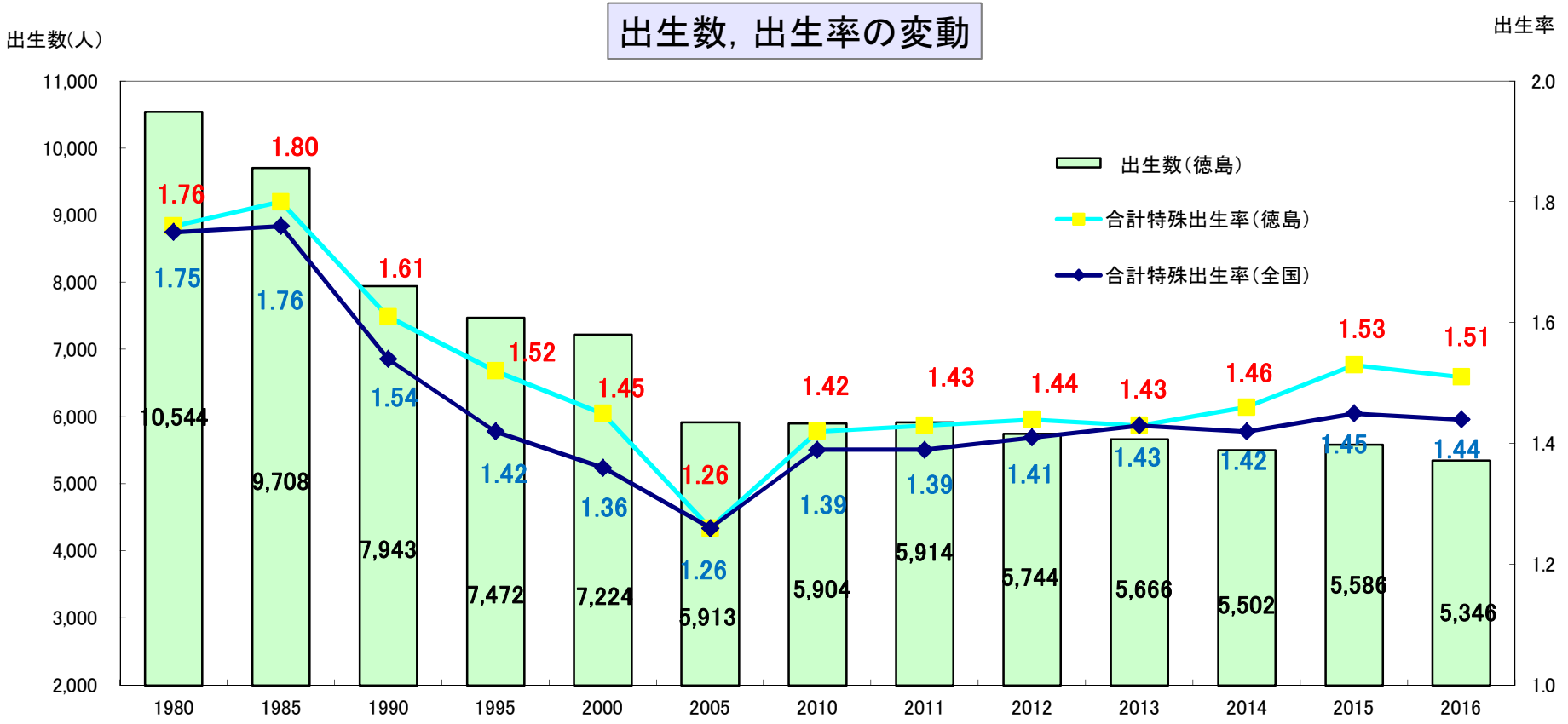
３　少子化の現状

依然として進行する少子化

- 2016年の本県の出生数（5,346人）は，前年と比較して240人減少している。
- 合計特殊出生率（概数）は，前年より0．02ポイント低下し，1．51となった。

※　合計特殊出生率　　15歳から49歳までの女性の年齢別の出生率を合計したもので，１人の女性が一生の間に生む子どもの数を推計したもの。

出生数，出生率の変動



出典：厚生労働省「人口動態統計」

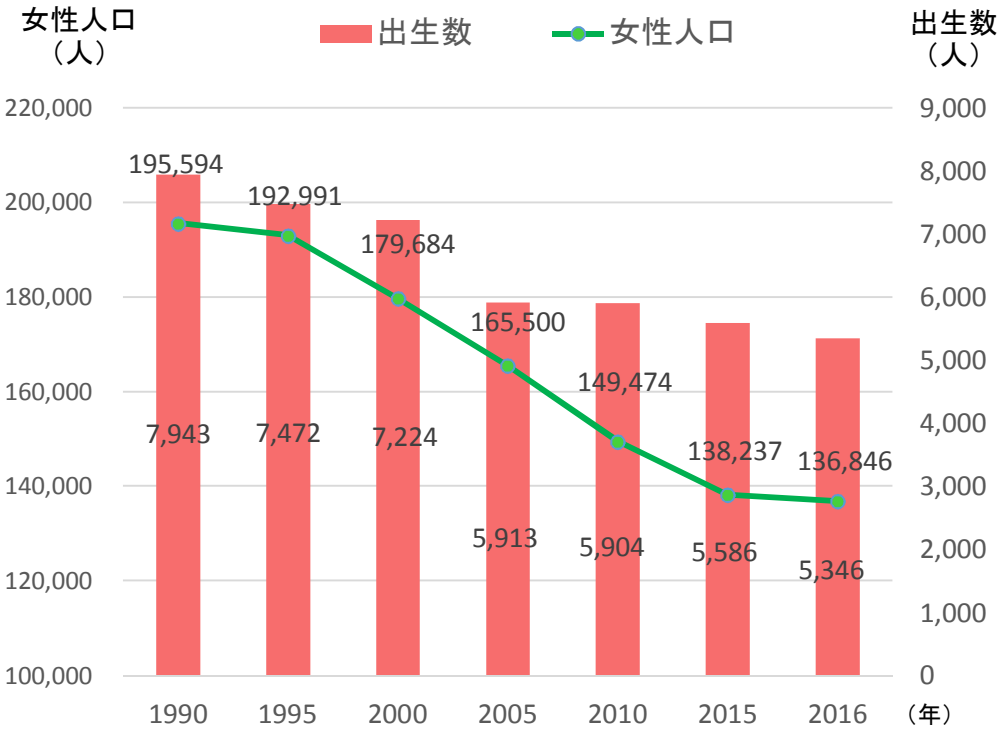
女性人口の変動

4　少子化の原因(1)

- 本県の女性人口(15歳～49歳)は，1990年と比較して約5万9千人減少している。
- 年代別で見ると，20代は，2000年の5万1千人を境に急速に減少し，2016年では3万人と約2万1千人減少し，30代でも減少傾向にあり，同様に比較すると約8千人の減少となっている。
また，40代でも，2000年と2016年を比較すると約7千人減少しているものの，2010年から微増となっている。

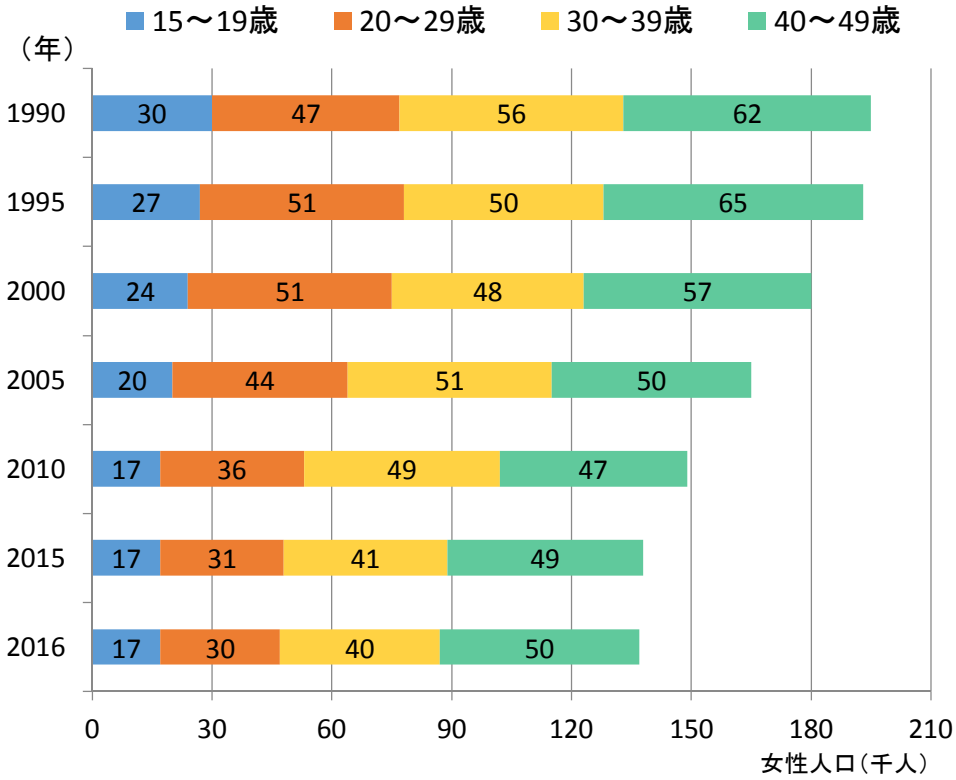
■　女性人口と出生数の変動(徳島県)

（15～49歳）



■　女性人口の年代別推移(徳島県)

（15～49歳）



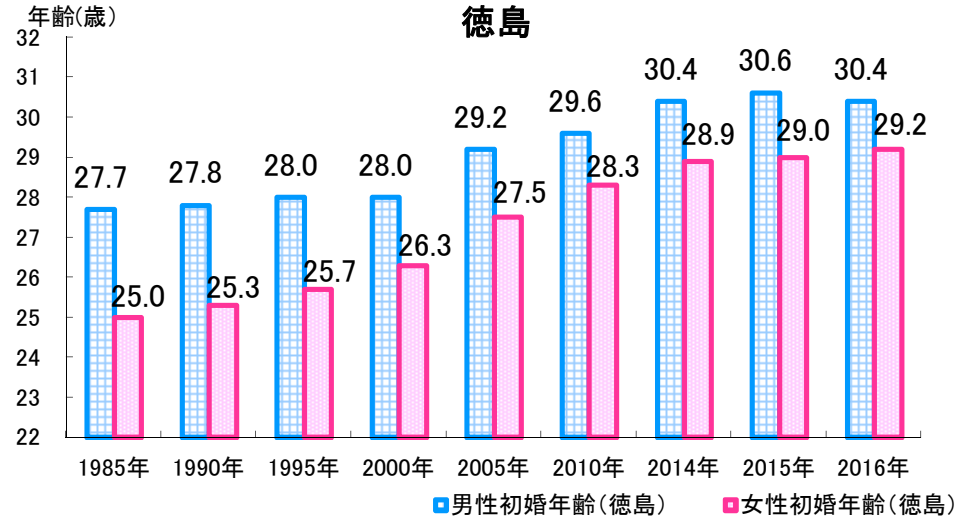
出典：徳島県保健福祉部「徳島県保健・衛生統計年報」

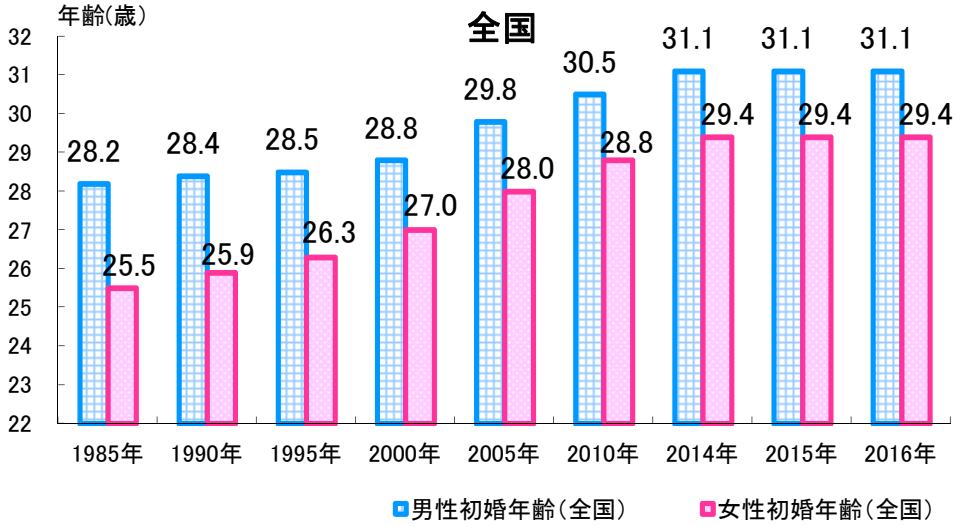
4　少子化の原因(2)

未婚化･晩婚化の進行

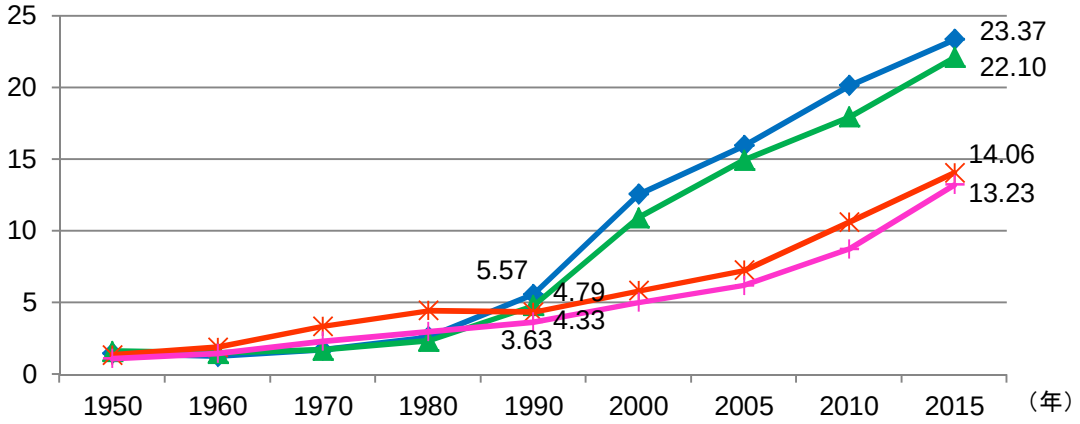
- 2016年の本県の平均初婚年齢は，1985年（約30年前）から男性で2.7歳，女性で4.2歳上昇した。全国においても，上昇傾向であるが，2014年以降男女とも同年齢で推移している。
- 生涯未婚率は,1990年を境に，大幅な上昇を示しており，急速に未婚化が進行している。
  1990年（徳島　男性　4.79%，女性　3.63%)(全国　男性　5.57%，女性　4.33%）
  2016年（徳島　男性22.10%，女性13.23%)(全国　男性23.37%，女性14.06%）

平均初婚年齢の変動（徳島県･全国）





生涯未婚率の変動（徳島県･全国）



※生涯未婚率
「45～49歳」と「50～54歳」の未婚率の平均値から「50歳時」の未婚率(結婚したことがない人の割合）を算出した統計指標

出典：厚生労働省「人口動態統計」
総務省「国勢調査」

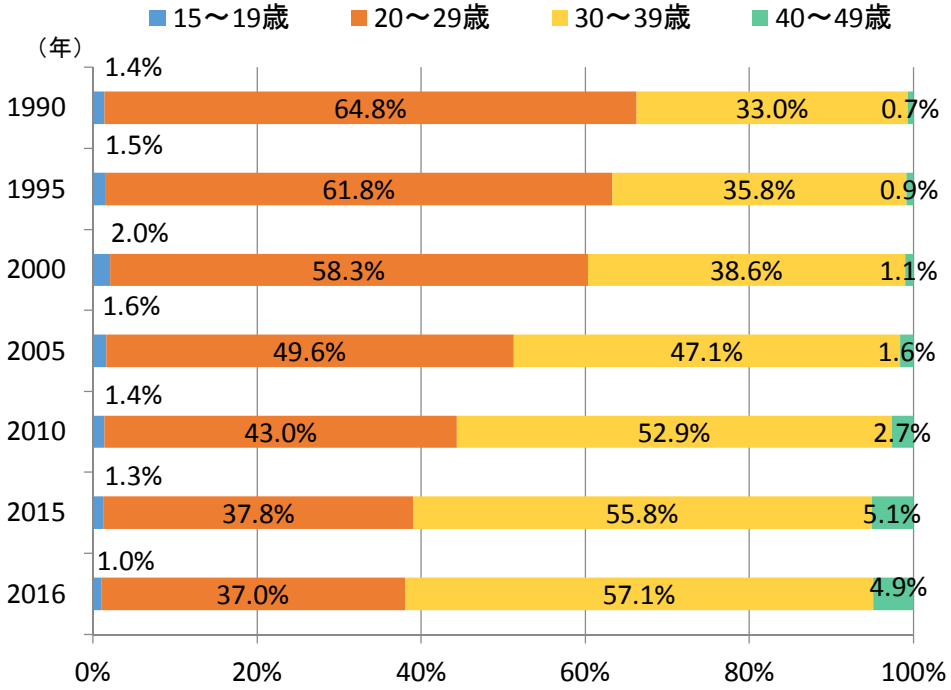
4　少子化の原因（3）

晩産化の進行

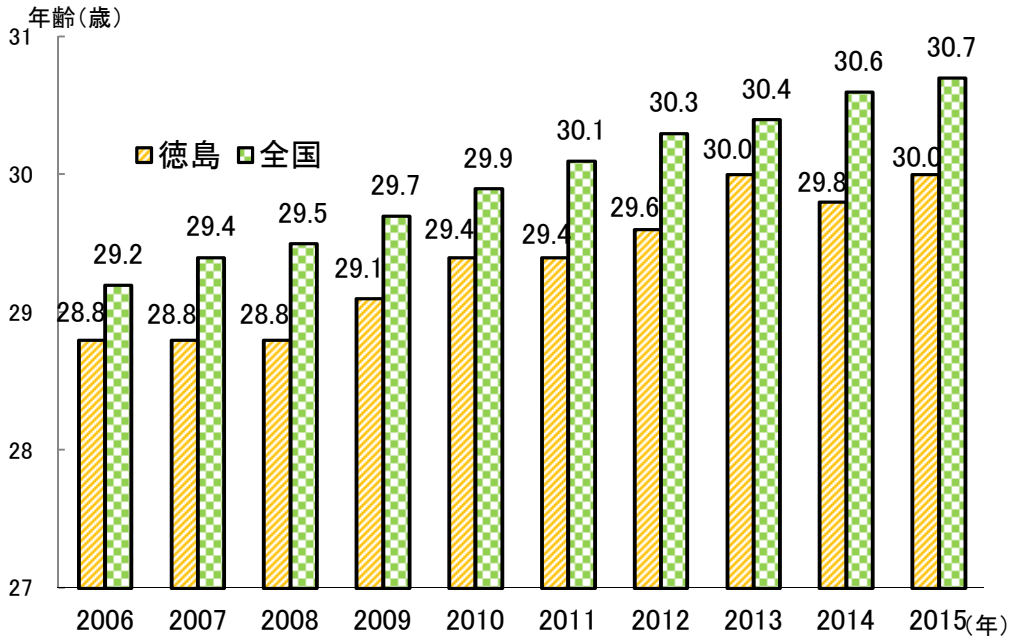
- 母親の年代別の出生数の割合は，1990年では，20代で64．8%と，過半数を占めていたが，2016年では，30代で57.1%と過半数を占めるようになり，また，1990年では1%に満たなかった40代での出生数の割合は，2016年では，4.9%となっており，晩産化が進行している。

- 第1子を出産したときの母親の平均年齢は，2006年と2015年で比較すると，全国では，29.2歳，30.7歳と1.5歳高くなっており，徳島県では28.8歳，30.0歳と1.2歳高くなっている。

年代別の出生数の割合(徳島県)



第1子出生時の母親の平均年齢(徳島・全国)



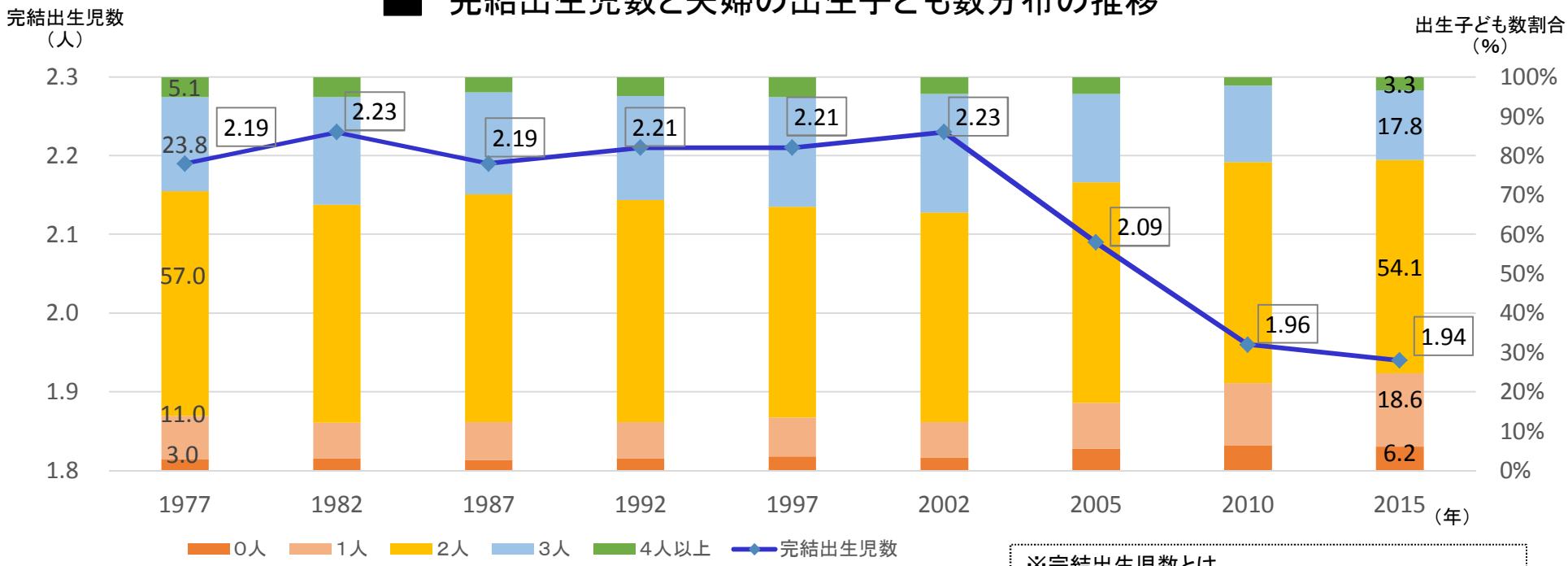
出典：厚生労働省「人口動態統計」 徳島県保健福祉部 「保健・衛生統計年報」

4　少子化の原因（4）

夫婦の出生力の低下

- 夫婦の完結出生児数（最終的な出生子ども数の平均値）は，1977年（第7回調査）以降，2002年までは2.2人前後で安定的に推移していたが，2010年に2人を下回り，低下傾向にある。
- 1977年以降，半数を超える夫婦が2人の子どもを生んでいる。
  子どもを3人以上持つ夫婦の割合は低下し，一方で1人の夫婦が増加している。

完結出生児数と夫婦の出生子ども数分布の推移



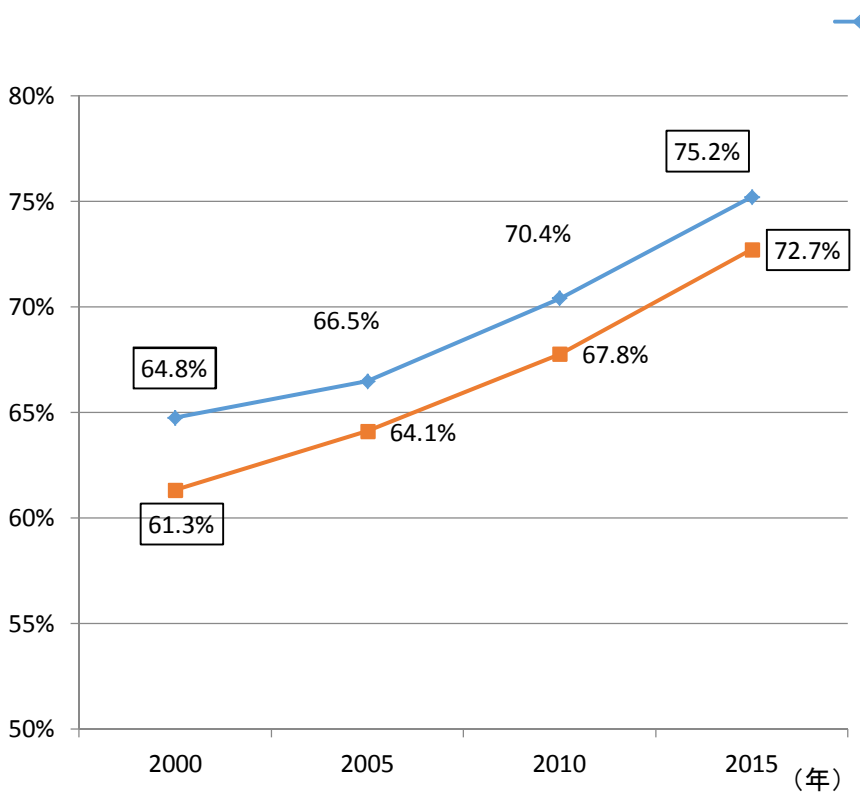
出典：国立社会保障・人口問題研究所「H27第15回出生動向基本調査」

※完結出生児数とは
結婚持続期間15～19年夫婦の平均子ども数であり，
夫婦の最終的な平均出生子ども数とみなされる

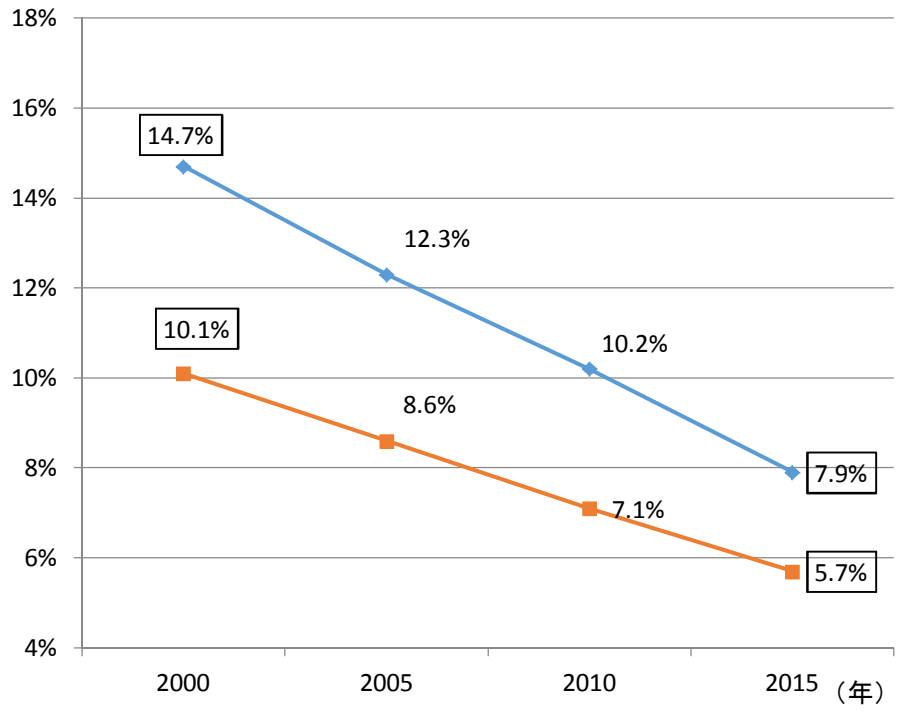
５　その他（１）

- 25歳から44歳の女性の就業している者の割合は，全国，本県とも上昇している。
- 一般世帯数に占める三世代から成る世帯の割合は，本県では2015年は7.9%，全国では5.7%と，減少している。

女性（25～44歳）の就業率の推移（徳島県・全国）



三世代世帯の割合推移（徳島県・全国）



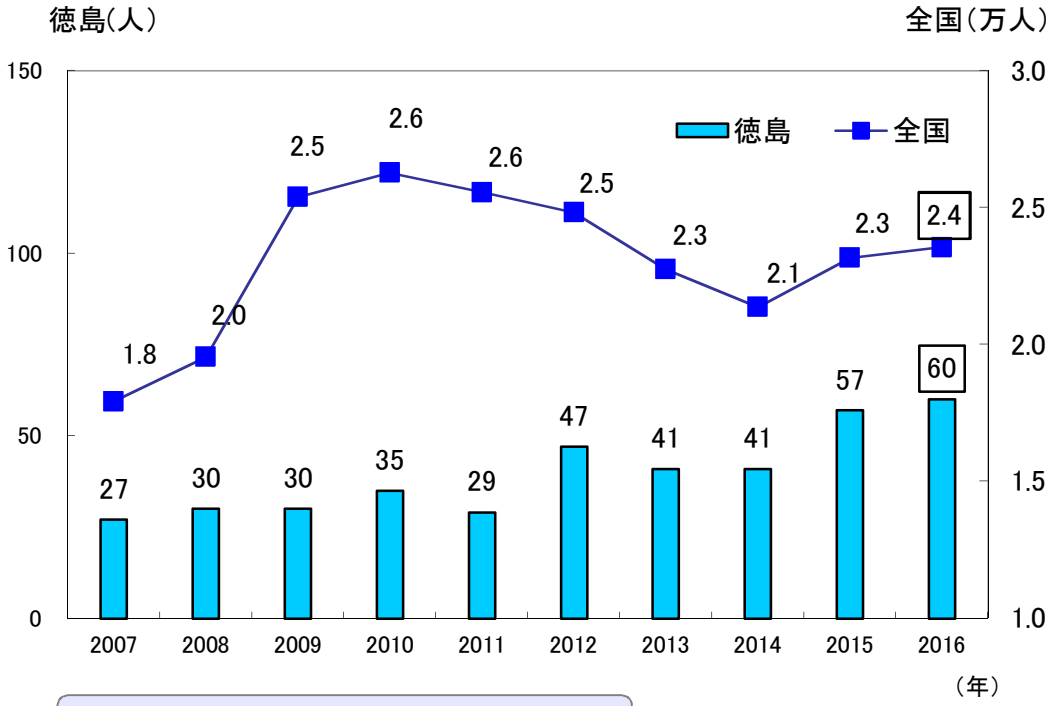
出典：総務省「国勢調査」

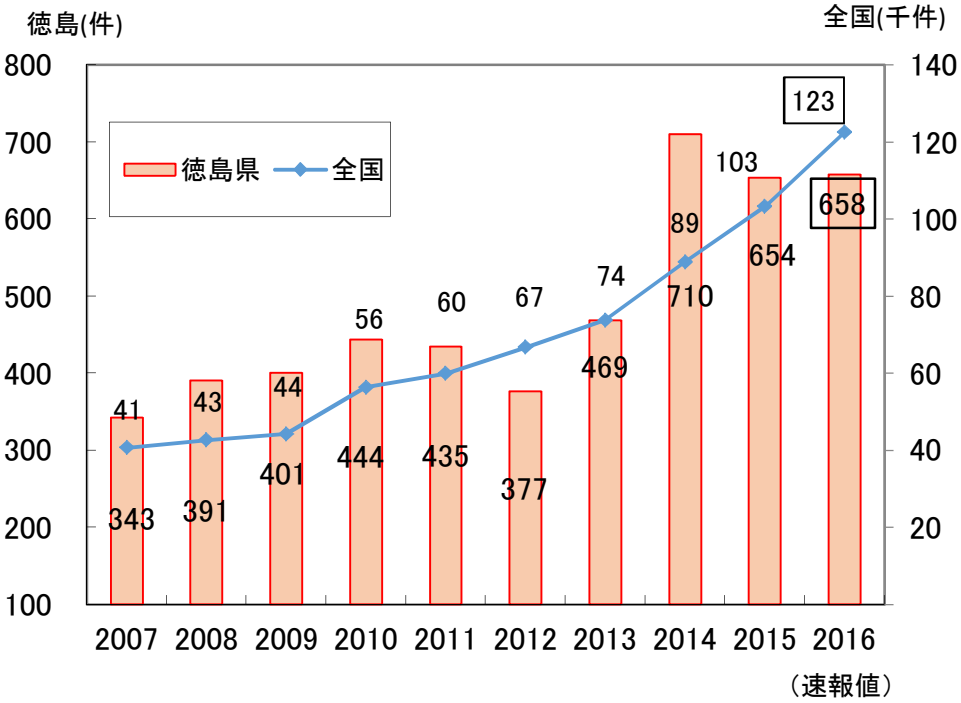
５　その他（２）

- 保育所等待機児童数は，2016年（４月１日時点）では，全国で23,553人で，前年同期において２年連続の増加となった。本県においても，１市3町で60人となり，前年に比べ3人の増加となった。

- 児童虐待相談対応件数は毎年増加しており，全国の2016年（速報値）は122,578件であり，前年に比べ約2万件の増加となり，過去最多となった。
本県においては，658件となり，高い水準で推移している。

保育所等待機児童数の推移（徳島県・全国）



出典：厚生労働省調査資料

児童虐待相談対応件数の推移（徳島県・全国）